

企業ニュース JSR

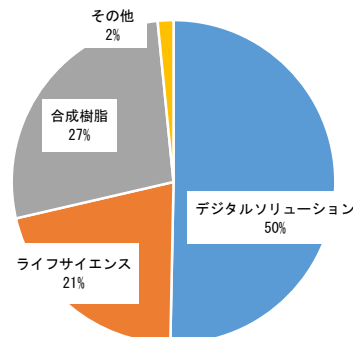
(東証1部 : 4185) <https://www.jsr.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

創業事業を切り離し、ファイン事業を推進

1957年、「合成ゴム製造事業特別措置法」施行により、日本合成ゴムとして設立された。1969年、民間会社へ移行し、合成ゴムからエマルジョンや合成樹脂へと石油化学系事業を展開するとともに、当社固有の高分子技術を活用し、半導体材料・ディスプレイ材料・光学材料などへ事業を拡大し、情報電子材料を核としたファイン事業を推進してきた。1997年に現在の社名に変更した。2021年5月、自動車用タイヤなどに用いられるSBR(スチレン・ブタジエンゴム)などを製造するエラストマー事業の譲渡を発表。事業体制の抜本的な改革を遂行するため、創業事業を切り離し、デジタルソリューション事業、ライフサイエンス事業に注力していく。エラストマー事業は会社分割し、非継続事業に分類、競争法などに基づき各国の許認可等の取得完了を条件に2022年4月1日にENEOS社に譲渡される予定。

◇22.3期会社計画売上収益構成比



(出所) JSR資料よりCAM作成

半導体用材料の売上収益、CDMO事業のパイプラインが拡大

22.3期・第1四半期(4-6月)の連結業績は、売上収益が823億円、前年同期比22%増、コア営業利益が126億円、同56%増(当期よりエラストマー事業を非継続事業に分類、売上収益、コア営業利益に含まず、増減率も組み替えて算出、以下同じ)。半導体材料の売上拡大などによりデジタルソリューションが伸長、各事業とも売上収益が拡大したライフサイエンスも業績貢献した。半導体材料ではEUVレジストをはじめとした先端材料に加え、KrFレジストなど既存材料も伸長した。ライフサイエンスではバイオプロセス材料の売上収益が大幅に拡大した。

22.3期の連結業績の会社計画は、売上収益が3,180億円、前期比2%増、コア営業利益が430億円、同14%増。第1四半期のコア営業利益実績は会社計画を上回って進捗したが、通期予想の修正は行っていない。半導体市場は当初想定を上回って成長する見通しとなるなど、好調な需要環境が継続する模様。CDMO(医薬品製造開発受託)事業では懸念された部材調達にめど、大型の設備投資も実施する。新薬パイプラインは拡大しており、今後の業績貢献が期待される。

[株価動向・投資判断]

デジタルソリューション、ライフサイエンスの伸長による中期的な業績成長が期待できる銘柄。CDMO事業における能力増強投資は来期以降の業績貢献が期待できよう。

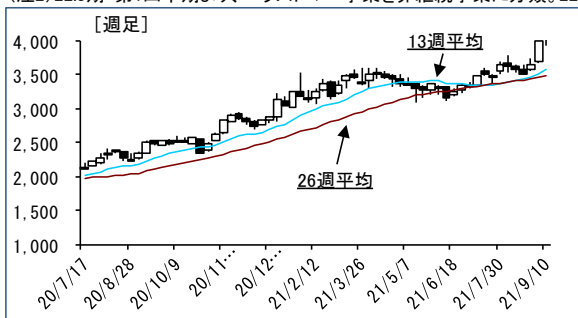
<4185 JSR 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	コア営業利益	営業利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	円	円
20.3	471,967(▲5)	33,236(-)	32,884(▲27)	22,604(▲27)	104.4	60.00
21.3	446,609(▲5)	25,963(▲22)	▲61,633(-)	▲55,155(-)	▲256.7	60.00
22.3 予	318,000(2)	43,000(14)	43,000(26)	27,000(-)	125.6	60.00

(注1)コア営業利益は営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出

(注2)22.3期・第1四半期より、エラストマー事業を非継続事業に分類。22.3期の伸び率は21.3期の業績を同様に組み替えて算出



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価(2021/9/10)	4,175 円
年初来高値(高値日)	4,175 円(21/9/10)
同安値(安値日)	2,809 円(21/1/4)
予想PER(22.3予)	33.2 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,571.8 円
PBR	2.66 倍
予想配当利回り	1.44 %
(1株当たり配当金年60.00円)	
ROE(21.3)	▲15.1 %
発行済み株式数	22,613 万株